

山登りツアー



指導教員

尾久土正己

プロジェクト名

高野七口活性化プロジェクト

ミッションメンバー

梓谷愛音・岡部葵・近藤友恵・山岸莉那・嶋川久瑠実・村田直寛・山下蘭花

プロジェクト目的

高野山は 2004 年に熊野などとともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、和歌山県を代表する観光地の一つである。難波から電車だと 2 時間で行ける観光地であるのに、見かけるのはお年寄りや外国人観光客ばかりで、そこを訪れる若者の観光客の数は少ない。若者の高野山への関心をより高めるために、また高野七口周辺を活気のある場所に学生の力を最大限に活用し、活動していく。また、私たち自身で自発的な活動プランを考え、その活動を通し、地域再生・観光経営の両面において学習することも目的の一つである。

ミッション概要

日程：11 月 15 日（日曜日）

参加人数：60 人（当日の参加者 39 人+ばあむ。メンバー 21 人）

対象：和歌山大学全学部生

クリエの助成金とばあむ。会費を用いて私たち自身でバスを貸し切り、学生を高野山へ案内するツアーを行った。

今回は世界でも例の少ない「道」の世界遺産である町石道を歩くことで、「世界遺産を体感する」ことをテーマにツアーを企画。初心者でも参加しやすいように矢立～大門の比較的歩きやすいコースを選択し、山登り後には定番の観光スポットを巡り、高野山・高野七口の歴史を体感してもらうようなプランを作成した。

ミッション目的

高野山へは車や電車・ケーブルカーなどを使って行くのが一般的であるが、そこに「歩く」という選択肢を加え、「世界遺産を歩く」ことで高野七口の歴史を体で感じ、実際に歩かなければわからない新たな魅力を発見してもらうことで、新たなリピーターを増やすことを目的とする。

和歌山市から電車を使うと往復 3,000 円以上する交通費を、ばあむ。がクリエの助成金とばあむ。会費でバス借用代を賄い無料にすることで、誰でも気軽にツアーに参加できるようにし、また浮いたお金を現地でお土産やカフェで消費してもらうことで、現地にお金がいち早く落ちやすくなると考えた。

活動内容

1. ツアーの企画（5 月～10 月）

コンセプトは「世界遺産を歩く」といことで内容を固めていった。「山登り」と聞くと「しんどい」「初心者には無理」と思われがちなため、そのイメージをどう払拭するかを考え、「初心者でも大丈夫！」ということをアピールし、気軽に参加してもらえるように工夫した。町石道の歴史を知ってもらえるように、町石道のスタート地点である九度山の慈尊院

を訪れ、お昼を食べてから山登りをするプランにした。また、山登りのときの体調管理のために昼食は各自で用意してもらうことにした。

そして、定番の街歩きも組み込み、高野山を満喫してもらうような形にした。高野山二大聖地のひとつである奥の院は外さずに、壇上伽藍と霊宝館（博物館）の選択制にし、お土産を買ってもらうというコースにした。

悪天候の場合は安全面の点から山登りを断念せざるを得ないため、雨天時プランも作成し、参加者には雨でも満足してもらえるような工夫をした。

また、下見の結果も踏まえバス会社様からの意見も参考にしながら、ツアー約一ヶ月前まで熟考した。

【晴天時】

9：30 和歌山大学発→九度山・慈尊院散策→矢立茶屋で昼食後山登り開始→大門到着・記念撮影→壇上伽藍 or 霊宝館散策→奥の院散策→珠数屋四郎兵衛でお土産タイム→和歌山大学着

【雨天時】

9：30 和歌山大学発→九度山・慈尊院散策→大門到着・記念撮影→バス内で昼食→壇上伽藍 or 霊宝館散策→奥の院散策→フリータイム（約2時間）→和歌山大学着

2. 参加者の募集（8月末～10月）

ポスターや申し込みフォームも自分たちで作成し、Twitter・facebookで発信。今回は学内メールを送信せずに、学内でのポスター掲示と授業内での告知のみであった。ばあむ。メンバー個人が部活・サークル等へ宣伝し、参加者を募った。定員に達するか心配だったが、最終的に41名の募集があった。



デザイン・作成もばあむ。メンバーが担当。

公式ホームページにツアー用ページをつくり、またポスターにもQRコードを載せ興味を持った人がその場で申し込みできるようにした。

<http://crea06koya.wix.com/ikoya06#!-baamutour2015/c1m05>

3. ツアーコースの下見（8月～10月）

ツアーの下見は月一度行い、前回の下見での問題点や課題を改善できるようにした。

計 3 回の下見を経て、晴天時・雨天時コースだけでなくお人数での山登りを想定した下見も行った。細かな時間の変更や参加者の体力を考慮して順序の入れ替えを行い、綿密にツアープランを作成した。

ツアーコースの確定後、下見の情報を元に当日参加者に読んでもらうしおりの作成に取り掛かり、観光地の情報や高野山のお土産を掲載した。また、ツアー参加者の保険加入等の準備も入念に行った。

4. ツアー実行（11月）

ツアー前日に雨が降り地道はぬかるんでいることが予想された為、山登りは危険と判断し雨天時コースでツアーを決行した。ツアー中には、ツアーの様子を写真や動画におさめて **Twitter** を更新し、広報活動にも力をいれた。

奥の院散策後の自由時間に差が出来てしまったが、それ以外は下見を重ねていたことで大きなトラブルもなくツアーを実施することができた。

5. ツアー後のアンケート調査（11月～12月）

次回のツアーにつなげるために、参加者にはツアー終了後のバスの中でアンケートに回答してもらい、後日ツアー班でアンケートを集計・分析した。アンケートの調査項目では、高野山やツアーに対する感想・意見のほかに「高野山での購入物とその金額」を調査することで、私たちがツアーを開催することでどれだけ地域にお金が落ちるのがわかると考えた。

ミッションの成果（アンケートより）

ツアー参加者にむけたアンケートは **Google form** を用いて作成し、当日参加者 39 名中 37 名の方に回答していただいた。回答者の内訳は図 1 の通りである。

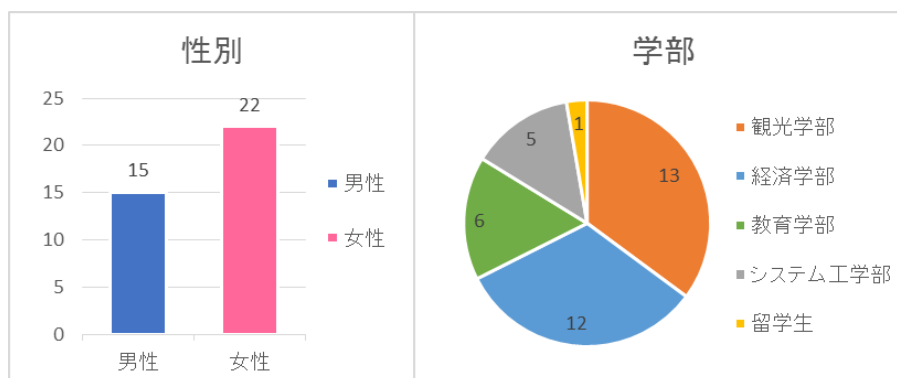


図 1

図2は、アンケート回答者のうち「また高野山・高野七口に行きたいと思うか」という質問の回答結果を表している。「強く思う」「まあ思う」と回答した人は全体の81%で、ミッションの到達目標の一つである「ツアー実施後、参加者の10%がもう一度高野山を訪れる。」ということに繋がる結果が出たと言える。ツアー参加者が実際にもう一度高野山を訪れたかどうかの調査がこれから必要である。

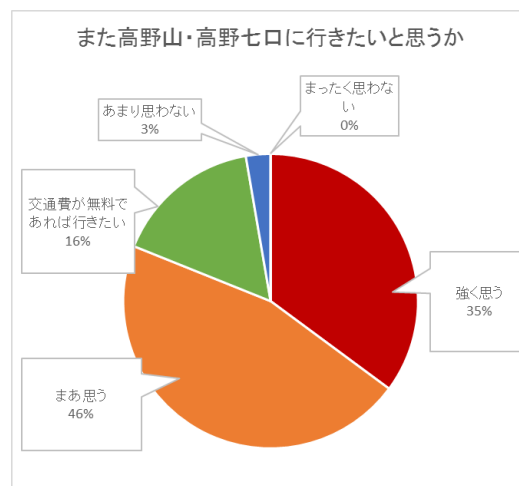


図 2

お土産の購入額について、到達目標は「片道の交通費ほど（1,500円程度）のお土産の購入」であったが、アンケート調査の結果、図3のよ

うな結果になった。一人当たりの平均消費額は804円と到達目標には届かなかった。また、比較として10代20代の平均土産・買い物代と飲食費（H25年度観光庁による観光統計調査）を載せている。今回のツアー参加者は大学生ということもあり、あまりお金を使いたがらないからということが大きな理由の一つであると考えられる。一方で、図4は高野山での購入物を参加者に回答してもらい（複数回答可）、集計したものである。上位4つのやきもち・コロッケ・コーヒー・笹巻あんぶはツアーのしおりに掲載し、ばあむ。メンバーがツアー中にTwitterや移動中のバス車内で宣伝したものであった。このことから、SNSやばあむ。メンバーからのクチコミは少なからず宣伝効果があることがわかった。ツアー前からSNSによる高野山の名産紹介などのプロモーションが出来ていれば、参加者の購入に繋がったのではないかと考える。次回のツアーでは、ツアーまでの期間にSNS等でお土産だけでなく高野山の見所も発信するなど、地域にも経済効果をもたらすような工夫が必要である。

お土産の購入金額

山登りツアー	観光庁による観光統計調査(H25年度)
<ul style="list-style-type: none"> ツアー参加者全員の消費合計: 24,128円 ひとりあたりの平均消費額: 804円 	<ul style="list-style-type: none"> 10代平均土産・買物代 3,501円、飲食費3,203円 20代平均土産・買物代 5,200円、飲食費6,060円

参考文献

平成25年度観光庁観光統計調査 (<http://www.mlit.go.jp/common/000991742.pdf>) 最終閲覧日2016年2月15日

図 3

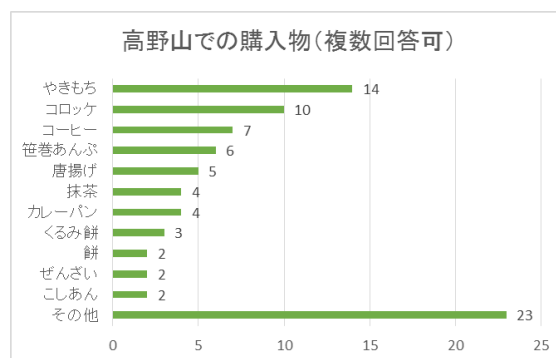


図 4

参加者のうち、高野山を初めて訪れた人はアンケート回答者37名中16名で、参加者の半数以上が高野山のリピーターであったことが、意外な結果であった。その中には、前回・前々回のばあむ。ツアーに参加してくれている人が6名いた。ばあむ。としてはツアーに

リピーターとして来てくれていることは嬉しい限りである。だが、ツアーとしては新たな訪問者を生み出すことが目的であるため、新しい観光客をどのように生み出すのかが今後の課題であると考えている。

参加者の声

ツアーに関する自由記述の中には、「初めての高野山に感動しました。山登りができなかったので、機会があればまた行ってみたいと思う。」「高野山は3回目だったが新たな発見もあり楽しかった。自由に散策することもできてよかった。」と、高野山を満喫してもらえたことがうかがえる。一方で、「1度行ければ満足で2度行こうとは思わない場所でした。」といった参加者のリアルな意見も見受けられた。今後のツアープランの作成で考慮すべき点の一つである。

また、「数回訪れたことがあったんですが、その時に知れなかった知識を得ることができたので良かったです。」「数回訪れたことがあったんですが、その時に知れなかった知識を得ることができたので良かったです。」など、ばあむ。によるガイドも好評であった。

まとめと今後の展開

ツアー全体を通して、メンバー間での情報共有が行き届いていなかったり、メンバー内で高野山に対する知識の差があったりと、入念に計画し抜かりなく準備をしてきたつもりでも、まだまだ足りない部分があると感じた。また、ツアー班のばあむ。メンバーはよく動いていたが、ほかのメンバーの中には手持ち無沙汰になっている人もいたため、もっと上手く仕事を割り振ることが次回に向けての課題である。

次回のツアーは、より魅力あるツアープランを作成すべきである。というのも、今までのばあむ。のツアーは参加費無料ということを押していたが、次回からは参加費を徴収することも視野に入れ、最終的には助成金に頼らないツアーの作成につなげたいと考えている。アンケートの自由記述からも、参加費が無料だから来ているのではないかと考えられる。参加費が多少かかっても同じ数の参加者を募るためには、ばあむ。による解説・ガイドなど個人で行く以上の付加価値をつけることが必要である。ツアーの内容としては、阿字観・写経など現地での体験をツアープランに加え、現地の人々に協力してもらうことで、地域も巻き込んだツアーにできないかと現時点で構想中である。どうすればリピーターが増えるのか、どうすればもっと地域にお金が落ちるのか、地域にも私たちばあむ。にも有益なツアーにしたい。

4年間の活動が実を結び、学内でばあむ。の知名度が上がってきていると今回のツアーで感じた。その結果として今年も多くの新メンバーも加わり、今後はツアーや定着した企画のほかにも新しい活動もできればと考えている。